

295) すぎた時間

彼の手紙を読み返しては	出会いのころをたどっています
新宿駅の橋の上から	雪国へ行く列車の ^{あか} 燈りを
子供のように眺めていたのは	ジングルベルの今頃でした
けだるい午後の ^{ひざ} 陽射しの中で	過去の時間がよみがえります
去年のアルバム ベッドに ^{ひろ} 拡げ	二人の写真見つめています
フルオープンで走りつづけた	波乗り道路の松の林と
赤い夕陽の東京湾は	今でも私のドライブコース
時の流れに ^{さか} 逆らうように	過去の時間を追いかけてます
むかしの日記読んでるうちに	空白の日がうまって来ます
3月7日 6月8日	この日は彼と喧嘩をした日
涙がにじむ哀しい日々も	今は私の自立記念日
^{はたち} 20歳の日々はもどかしいから	過去の時間を集めています
古いCD床に並べて	私の曲をふりかえります
哀しいことが多かったから	涙の ^{うた} 詩にとても ^ひ 魅かれる
15の春に初めて買った	「卒業写真」は私の教科書
時を忘れた少女のように	過去の時間にひたっています